

## 第二部

学校法人日本体育会経営諸学校の沿革

第一編 日本体育大学の沿革

日本体育大学



校歌

近藤 忠義 作詩  
呉 泰次郎 作曲

一、紫匂う武蔵国原

涯なき大野の広きを心に  
此処に集えり吾等集えり  
ますらおの眉高くあげて  
質実剛健輝く校風  
日体 日体 日体  
燦たる母校

二、緑に照るや玉の河波

澄み行く流れの清きを心に  
此処に学べり吾等学べり  
英知の瞳深くすみて  
知徳兼修輝く校風  
日体 日体 日体  
燦たる母校

(一)むらさき におう むさしくにばら  
 口のぞめば きよし ふじのかみやま  
 はてなき おおのひろきをこころに  
 ゆるがぬ いわおのかたきをこころに  
 ここのつどえり われらつどえり  
 ここのき たえり われらきたえり  
 ますらおの—まゆたかくあげて  
 くろがねの—うでかたくくみて  
 し つじつ ごうけん } かがやく こうふ  
 だ んけつ わ きょう  
 につたいにつたい に つたいさんた るほこう

三、

望めば清し富士の神山  
 ゆるがぬ巖の固きを心に  
 此処に鍛えり吾等鍛えり  
 黒がねの腕固く組みて  
 団結和協輝く校風  
 日体 日体 日体  
 燦たる母校

四、

文を練りつつ武を鍛えよと  
 のらせし勅の御胸を心に  
 此処に競えり吾等競えり  
 治世の光技に添いて  
 体育奉公輝く校風  
 日体 日体 日体  
 燦たる母校

## 序章 本稿の叙述と構成

明治二十六年三月三日、日本体育大学の前身たる「日本体育会体操練習所」が誕生した。この機関は体操教員に「体操練習」の機会を提供することを目的に設置された施設でしかなく、国が認可する学校として産声を上げたわけではなかった。しかし、この練習施設はやがて各種学校として改組され、本格的な体操教員養成に着手するようになった。明治三十三年の「日本体育会体操学校」への改組は、国が日本体育会に補助金を交付する条件でもあった。補助金交付に際して本会の設置する体操練習施設を「学校」へと昇格させるための教育課程および施設の整備が条件として提示されたからである。無論、国の要求は本会が経営する体操練習施設の維持にのみ向けられたのではなく、日本体育会という組織を社団法人化させ、公的性格を持たせることが前提となっていたのである。日本体育会体操練習所が日本体育会体操学校へと昇格したのが明治三十三年五月で、日本体育会が社団法人日本体育会へと改組を図ったのが翌三十四年九月であったことから、その間の事情を推し量ることができよう。

いっぽう、昭和二年に東京府の私立中学校に対する補助金交付の制度が改正されたが、この制度改正は荏原中学校を維持・経営する本会をして財団法人日本体育会へと改組せしめることにもつながっていった。実際にはその財団法人化の問題は棚上げにされ、この実現は体操学校を専門学校へと昇格させようとする機運が高まった昭和十五年四月まで待たねばならなかった。かくて、社団法人日本体育会は財団法人日本体育会へと改組され、本会経営の日本体育会体操学校のほうは日本体育専門学校へと昇格していく。また、この財団法人時代に本会は体育専門学校

を大学へと昇格させることを期し、昭和二十四年三月に大学への昇格の認可を得るにいたっている。その後、私立学校法の改正に伴い、学校を経営する法人は学校法人でなければならぬことになったので、本会も財団法人を改め学校法人へと改組することとなった。昭和二十六年三月のことである。したがって、新制大学として設置された日本体育大学の歴史の大半は学校法人日本体育会の歴史と重なっているといわねばならない。

このようにみえてくると、日本体育会体操練習所を出発点として足跡を刻んできた日本体育大学の発展は日本体育会の改組・転換に合わせて達成されてきたといえよう。そこで、本稿では本学の経営母体たる学校法人日本体育会の改組・転換に沿って昇格していった学校それぞれの段階を取り上げ、点描することにしたのである。なお、日本体育大学に昇格してからは、昭和三十九年の東京オリンピックを境に、保健体育教員養成機関としての役割に重きを置いてきた時代と、従来の機能に加えてスポーツ選手の育成に力を注ぐようになった時代とにわけることができるので、大学昇格後の時期を二期に分かちて取り上げることにした。

日本体育大学は日本体育会体操練習所から数えてほぼ百年にふさわしい歴史と伝統を刻んできた。この百年は概ね等しく二期に分つことができるが、前半の五〇年は学校体育の中心教材が「体操」に置かれ、後半の五〇年間は「スポーツ」に置かれてきた時代である。また、前半の五〇年は軍国主義が教育に影を落としていたし、後半のほうは平和憲法のもとでの民主主義教育が貫かれてきた。ために、本学における教育内容も前半と後半とは大きく異なっていたといわねばならない。戦争色の濃い時代にあつては本学の教育方針も国策に倣って将来の軍人育成のための教育に絞られていたし、戦争から解き放たれた第二次世界大戦後には平和の象徴としてのスポーツを中心とする教育へとその教育方針が転換されていったのである。そこで、本稿では日本体育会体操練習所に発し、日本

体育会体操学校、日本体育専門学校を経て発展してきた日本体育大学が体育・スポーツに対する時代社会のニーズに如何に順応しながら今日にいたったのかについて素描することにした。